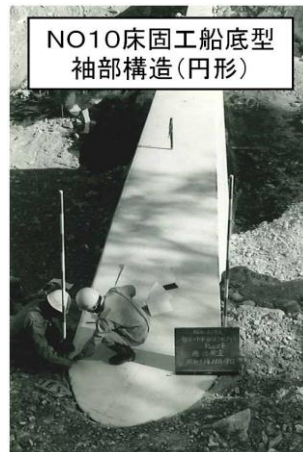


49 大規模地すべりから地域を保全した平谷地すべり防止事業 徳島県（三好市）



渓岸侵食状況(昭和37年)

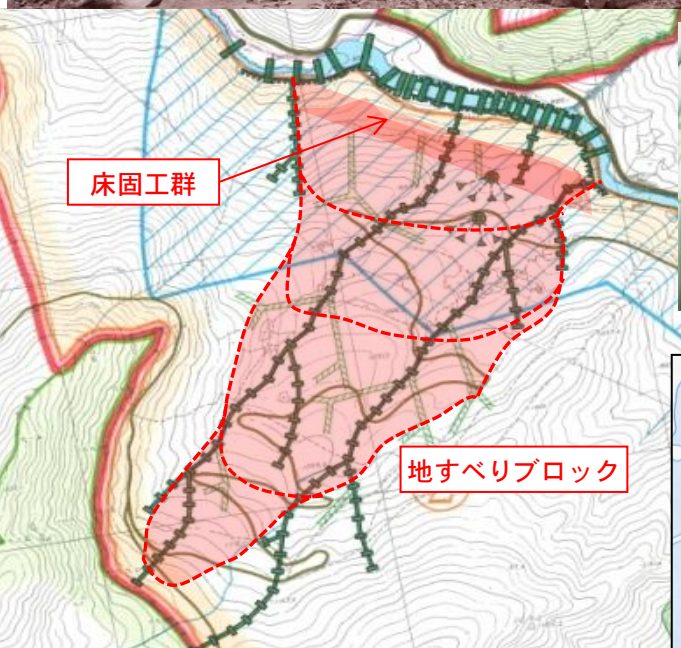


NO10床固工船底型
袖部構造(円形)

排水トンネル施工状況



床固工施工状況(平成24年)



床固工群

地すべりブロック



○所在場所
徳島県三好市東祖谷菅生 ひがしいやすげおい

○施設・工法の概要
 渓間工：コンクリート床固工、鋼製枠護岸工外
 山腹工：コンクリート土留工・水路工、緑化工外
 地すべり防止工：排水トンネル工、集水井工外

○解説
 平谷地すべりは、区域面積60ha、最大深度60mからなる深層の大規模地すべりです。特徴としては、地すべり末端部が洪水時に崩壊・浸食を受け、末端地すべりが活動することにより上方の地すべりを誘発する後退性地すべりで、末端部は祖谷川の渓床を潜り対岸を隆起させるという特異な地すべりであったことから、地すべり末端部の渓床に大規模な床固工群を施工しました。施工にあたっては、地すべりの側圧を受けても破壊されない構造の床固工（船底型袖部構造の採用等）を開発・改良しながら事業を実施し、大規模地すべりを沈静化させています。